

とちぎ未来アシストネットだより

発行：都賀地域教育協議会〔発行日：平成25年3月1日〕

未来を担う栃木市の子どもたちを地域ぐるみで育てよう

栃木市では、子どもたちは次世代を担う地域の宝であるとの認識のもと、子どもたちに人生の礎となる生きる力をはぐくむため、学校・家庭・地域の連携・協力による地域ぐるみの子育てを推進し、明るい未来を築く子どもたちを育てることを目指しています。

都賀地域教育協議会長あいさつ

～とちぎ未来アシストネット初年度を振り返って～

本年度から本格的に始動しはじめた「とちぎ未来アシストネット」ですが、都賀地区では元々学校を地域で支えるシステムと雰囲気醸成された地区であったため、スムーズに取り組みに入れた感があります。



会長：鈴木正俊 都賀中学校長

特に小学校では、朝の読書活動での読み聞かせボランティアグループによる活動や伝統文化体験活動等、何年も前から地域の方々の協力を得ている活動があり充実したアシストネットになったと思います。また、中学校では文化祭での和太鼓や杖術の発表で地域保存会の皆様の熱心な指導があり、良きふるさと学習となりました。

アシストネットの特徴として、地域コーディネーターさんの活躍ぬぎには成り立ちません。今後、地域コーディネーターの方々の情報交換やシステムづくりを充実していかなばならないと考えています。

また、児童生徒が教育を受ける場は学校だけではありません。地域の様々な伝統文化活動や子ども会育成会等の各種団体活動においても、児童生徒の成長に欠かすことのできない活動が多くあります。学校としては、どんどんそのような活動に積極的に児童生徒を参加させる取り組みも「とちぎ未来アシストネット」の新たな方向性として実施していきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

〈とちぎ未来アシストネットプランの特徴〉

これまでも学校での様々な活動の場面で、学校を支援するボランティアとして多くの地域の皆様にご協力をいただいておりますが、このアシストネットプランの特徴としましては、学校のニーズと地域のボランティアをマッチングさせていく地域コーディネーターの方を各学校単位に配置していることです。

各コーディネーターの皆さんが学校と地域のパイプ役を果たしてくださることにより、地域の皆さんも学校支援ボランティアとして参加しやすくなります。

都賀地域においても、本年度から各学校単位で地域コーディネーターの皆さんが活動されており、各学校の様々な場面で地域の方々がボランティアとしてご支援、ご協力をくださいました。

【合戦場小学校でのボランティア活動の様子】



＜室町文化体験（生け花）＞

夏季休業中に行われた「サマーチャレンジ」において、室町時代に確立された日本の伝統的な文化のうち、『生け花』と『お茶』『着付け』について、お二人の講師を招いて体験的な学習をしました。

6年生の社会科の発展的な内容として、子どもたちは興味をもって活動に取り組み、教室では出来ない貴重な体験をすることができました。花は家に持ち帰り、お茶はその場で美味しくいただきました。



＜室町文化体験（お茶）＞

クラブ活動では、料理・手芸クラブで『指編み』をすることになりましたが、指導できる教員がいなかったため、地域コーディネーターに協力を仰ぎ、講師を手配して頂きました。



＜指編みの指導＞

当日は、わずか1単位時間の間に素敵な「シュシュ」を作成し、大満足でした。また、バドミントンクラブでも専門的に教えてくださる講師をお願いし、ラケットの持ち方から打ち方まで丁寧に指導いただき、技能が向上しました。こちらは、何時間か継続してご指導いただいています。



＜バドミントンの指導＞

【家中小学校でのボランティア活動の様子】

《朝の読み聞かせ》



隔週の金曜日は、読み聞かせボランティアの方が「朝の読み聞かせ」を実施している。

現在、6名のボランティアの方が、1年生から5年生の各クラスをローテーションを組み、児童に読み聞かせをしてくださっている。

表情豊かに季節や行事に合う内容の本を読んでくださるのを熱心に聞いている。

《日本文化体験学習の指導》



（茶道体験）



（生け花体験）



（着物着付け体験）



（水墨画体験）

6年生の総合的な学習の時間では、「日本の文化を知ろう」というテーマで、茶道・生け花・着物着付け・水墨画の体験学習を行っている。

毎年ボランティアの方に講師をお願いしているが、地域コーディネーターの方もその一人である。

それぞれの専門家が、分かりやすく楽しく指導していただき、初めての体験にもかかわらず、児童は意欲的積極的に活動に取り組んでいる。

家庭での経験はほとんどないという児童が増える中、貴重な体験となっている。

【赤津小学校でのボランティア活動の様子】

○読み聞かせボランティア 全校生



17名の会員で活動している、結成5年目を迎えるボランティアグループである。毎週金曜日の朝の活動で、読み聞かせをしてきている。学期ごとに定例会を開き活動の振り返りをしたり、次の学期の計画を確認したりしている。子供たちは、とても楽しみにしていて、静かに話を聞く態度も育ってきている。落ち着いた雰囲気ですぐ1日のスタートをきる習慣作りにも役立っている。

○スクールガードリーダーによる生活科の支援 2年生



登校時の安全指導やスクールバスの下校指導で、お世話になっているスクールガードリーダーさんには、樹木の剪定（教頭との共同作業）や生活科の作物づくりまで、支援をしてもらっている。ほぼ毎日来てくれるので、下校時に2年生と一緒に、成長を確認して、声をかけていただけるなど細かい対応がありがたい。

○田植え・稲刈り体験 5年生



以前、本校のPTA会長をし、今年度は自治会長もしている地域の中心となる方に、5年生の社会科の授業の一環として米作りの体験をさせてもらった。当日は、奥さん息子さんと3人で対応してくれたので23人の児童は、細かいところまで支援してもらえた。児童の体験は、主に手作業であったが、機会による作業も見せてもらい、合わせて農業の難しさややりがいについても話を聞

くことで、キャリア教育にまでつなげることができた。稲刈りには教頭も引率に加わったので、いろいろと話をし、アシストネットについても理解してもらえた。

【都賀中学校でのボランティア活動の様子】



〈祭りを盛り上げる準備〉

1 生徒のボランティア参加

相互支援、協働を目指す本校の活動として、生徒を地域の中で育てていただく試みを行った。

地域の祭りボランティアを通し、生徒は地域の方々より様々な社会のルールを教えていただいた。

2 総合学習の時間の支援

和太鼓・杖術は、都賀地区に長く根付いた郷土文化である。これらを学ぶことは、郷土に生きる生徒の育成に欠かせない活動と考え、本校では総合的な学習の中に和太鼓、杖術の学習を取り入れてきた。

本年度は、とちぎ未来アシストネットを活用し、ボランティアの方々のお力を借りた。文化祭では素晴らしい発表を行うことができた。

3 学校行事への支援

合唱コンクールの審査や介護についての学習会（認知症サポート研修会）など、地域のプロの力をお借りして、更に充実した学校行事を目指すことができた。

4 特別支援学級への支援

2月に活動予定のボランティアで、小学校1年から中学校3年までの子供たちが楽しんで体験できる芸術活動を考えている。担当者とコーディネーターさんとボランティアの方で打合せを重ねていきたいと考えている。

5 ボランティアルームの整備

ボランティアさんをお迎えする場を作り、ボランティアさんに気持ちよく活動していただけるようボランティアルームを設置した。

また、活動が盛んになるよう掲示物も充実していく予定である。



〈杖術の学習〉



〈太鼓の学習〉



〈ボランティアセット〉

《今年度の成果》 ～学校からの声～

- ・専門的な知識や技能をもつ講師に教えていただき、学校効果が上がった。
- ・子どもにとって有意義な体験活動ができた。
- ・児童にとって充実した学習支援や体験活動を行うことができた。
- ・ボランティアの方と接することで、大人との接し方を学んだり、感謝の心を育てることができた。
- ・多くの地域の方に学校に顔を出していただくことで、学校に対しての理解が進み開かれた学校づくりに有効である。
- ・地域コーディネーターの方と活動の充実に向けて、連携しながら進めることができた。
- ・少しずつではあるが、とちぎ未来アシストネットを通じて学校教育を地域の方に支えていただく試みがスタートできた。
- ・公民館担当者、地域ボランティアコーディネーター、学校ボランティアコーディネーターのつながりができた。

本年度の都賀地域教育協議会の活動

都賀地域教育協議会は、ボランティアやコーディネーターの皆さんを支援していくとともに、とちぎ未来アシストネットプランを推進していくうえでの方策や改善策等を検討・協議していく役割を担う組織であり、地域内の各学校長・関係団体代表者等と地域コーディネーターを構成員として平成24年4月に発足しました。

本年度は、年間3回の会議と学校支援ボランティア講座を開催しました。

講座では、協議会会長である都賀中学校鈴木正俊校長を講師に迎え、多くの地域住民の方に参加いただき、現代の学校の状況や学校ボランティアとしてご支援、ご協力をいただく場合の心構えなどを学びました。

また、1月10日に開催された第3回地域教育協議会では、各学校から本年度の活動状況の報告をいただき、成果や問題点を協議しました。

協議会の中では、「地域の方々が学校に指導で来てくださると、子ども達は一生懸命に取り組むので、たいへん有効である」、「中学校では授業の中にボランティアとして入っていただくことは難しいが、学校行事等へ支援いただき毎年少しずつ積み重ね、アシストネットが継承していければよいと考えている」などの意見がありました。

また、「ボランティアをお願いしたくても地域に人材がない場合がある」、「どの程度の経験の方を紹介すればいいのか悩む」等の問題も出され、コーディネーター間の打合せ会や公民館等との連携をさらに充実させていくことの重要性が再確認されました。

今後については、「都賀地域においては今までも学校に対して、地域の方々が様々な点でご支援、ご協力いただいている土壌があり無理なく進めていければよい」、「中学生については、地域の方が学校に協力してくださるばかりでなく、地域の活動(お祭りや子ども会活動など)に生徒を派遣する相互支援ができればよい」などの方向性が示されました。



学校支援ボランティア講座の様子

【都賀地域教育協議会事務局】

栃木市教育委員会 都賀教育支所 都賀公民館チーム〔TEL：27-5050〕